

# 三重町市場通り活性化のための光環境改善ワークショップ

日本文理大学 建築学科 助教 江越充 教授 近藤正一 一般社団法人ぶんご大野里の旅公社 赤嶺信武 三浦絵里奈 豊後大野市 建築課 都市計画建築係 桑原一善 佐藤康宏  
かたるみえ・LuMe Night 2021 実行委員会 若林幸隆 村田岳彦 長吉優香 廣瀬京 堀田健翔 益満光 渡邊尚樹 志方遥都 八木千尋 小川茉莉 渡邊新 K M SEUNGHYUN 畑野達也 二見拓希 齋藤志歩 田原乃々花 玉田梨那

## 対象

### 宿場町の面影が残る 豊後大野市三重町市場通り

かつては交通の要衝であり、昭和30年代まで宿場町として栄えたが、近年は交通網の変化や地域住民の高齢化による地域の活力の低下が課題となっている。加えて、空き家・空き地の増加や街路灯の老朽化が進み、街の夜の安全・安心が脅かされている現状にある。



## 目的

### 街の夜の安全・安心 + 活気

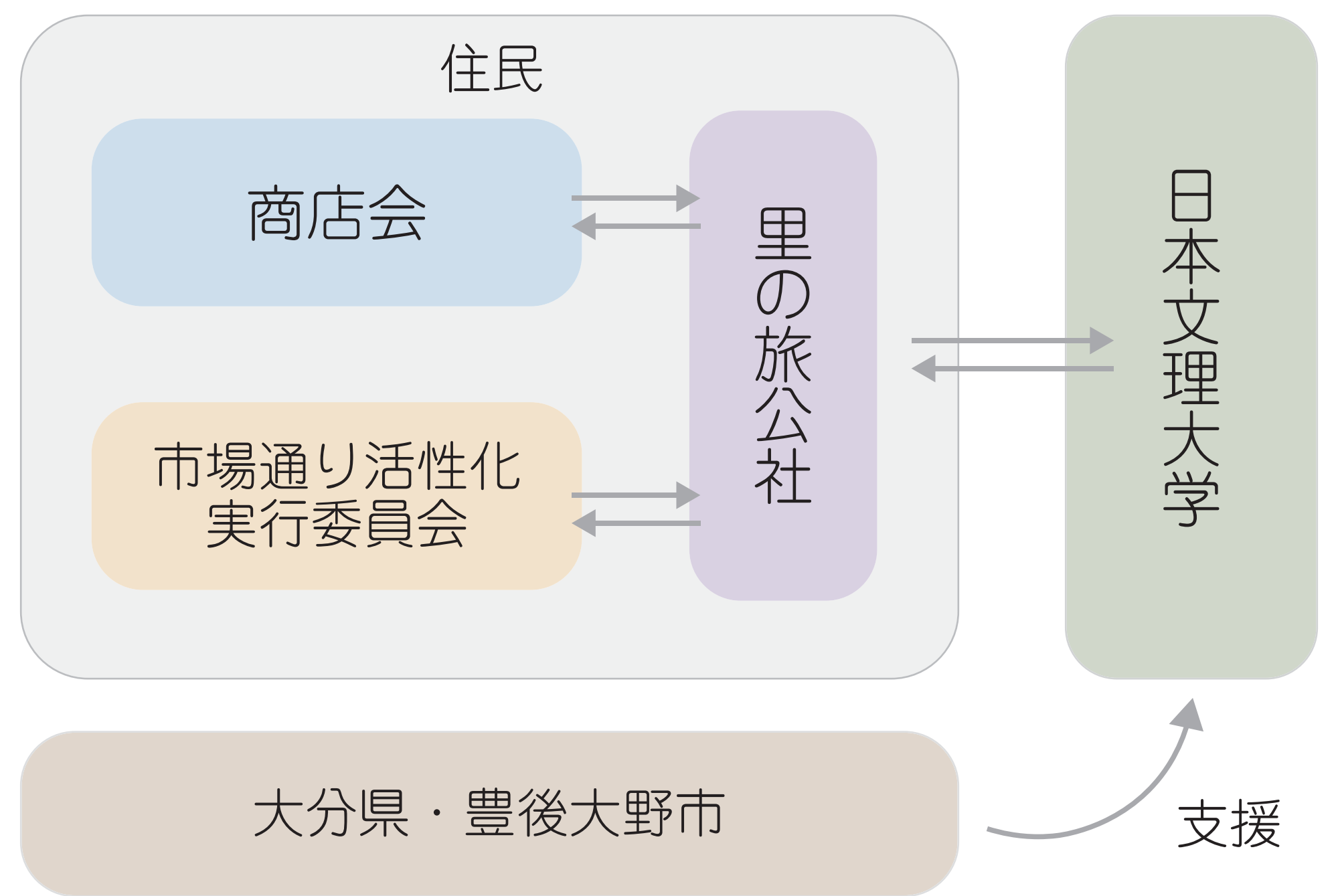
安全・安心の光環境の創出、愛着・誇りを持てる夜の景観づくりを目指し、地域住民に関心を持っていただくためのきっかけとして、光に関するワークショップを開催した。

## 実施内容

### 再び火を灯すことで、街を見つめ直すきっかけを作る

<p>夜の現状を調査</p>	<p>イベント実行委員会立ち上げ</p>	<p>プロジェクト履修生による 提灯の大量制作開始</p>	<p>実際の街路を使用した 照明実験</p>
6月	8月	10月	12月
<p>夜のまち歩き実施</p>	<p>現地での打ち合わせ 学生によるプレゼンテーション</p>	<p>10/24 イベント実施</p>	<p>県の会議にて イベントの結果を報告</p>

## 各団体の関係



## 学生の成長

### 人を想う

本事業を通して、学生たちが地域の方々を想い、作品を残した。その成果の一部をここで紹介する。

若林幸隆

#### イベント名「かたるみえ・LuMe Night」の由来

かたるみえ：仲間に加わるといった意味を持つ方言の「かたる」と、光をフランス語で表す「ルミエ」、三重町の「みえ」を合わせたもの  
LuMe Night：目に留まる大文字のLとMは「ルミエ」と「みえ」を彷彿とさせる夜の都も盛り上がりを見せて欲しいとの願いから派生名をつけた

志方遥都

#### イベントのロゴデザイン



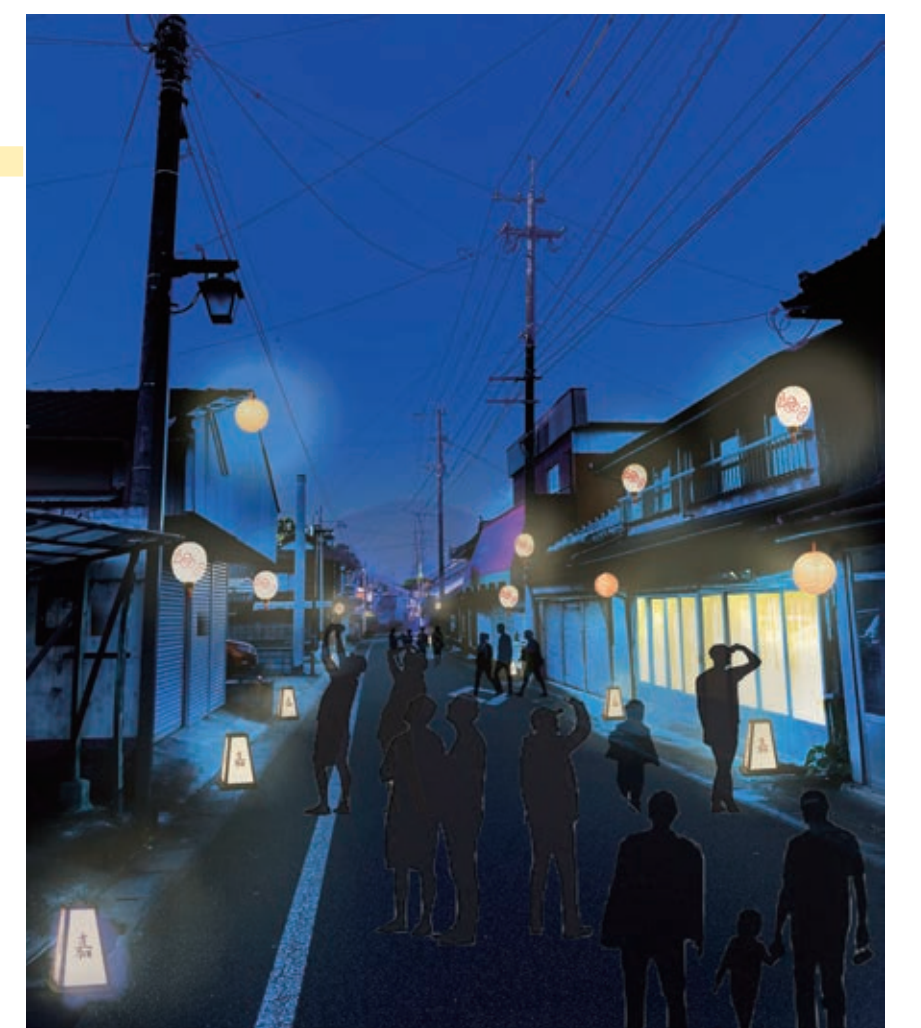
中心の三つ葉は「三」重町が芽生える様子を表している

「つな」くから横綱のしめ縄をモチーフにしたロゴをデザイン 彩られた9色は三重町の統合前の村の数を表しており、地域の繋がりが深まってほしいという思いと市場通りが益々賑わい、発展してやまないようにという思いをこめた

長吉優香

#### 街路の未来図

新しい形の街路灯が街に活気を与え、住民が夜も安心して通りを行き交う景色を思い描いている



村田岳彦  
綾のはこ

市場通りを行き交う人々の様子を漁業で使われる糸の綾で表現し、時計台広場がこれまで以上に人々の中心になるようにという思いが込められた作品

村田岳彦 + NBU 建築学科 1年生

#### 虹の卵

豊後大野市を構成する七つの街を虹に例え、新たな催しが産声を上げたことを卵に込めた作品 広く知られる催しとなるよう願いを込めながら作った

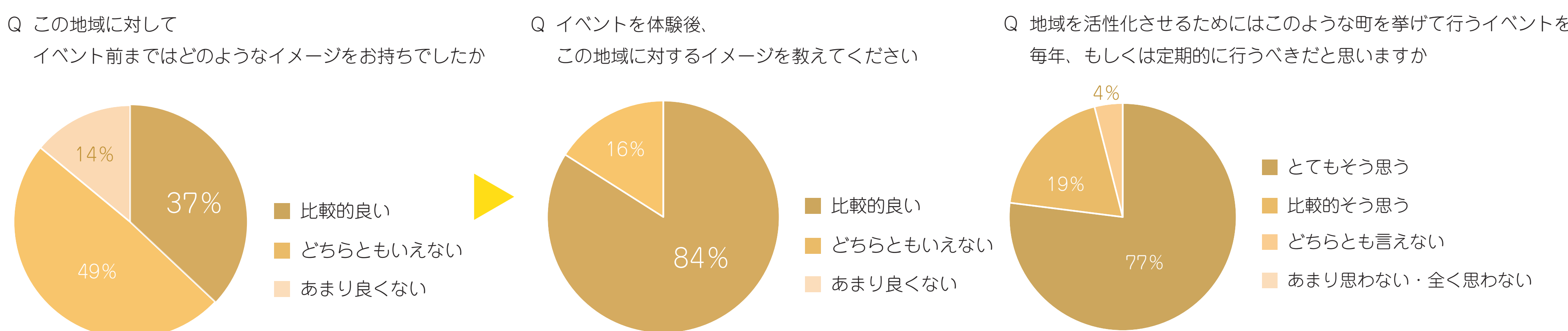


## ・まちおこしイベント「かたるみえ・LuMe Night」

<p>提灯・ランタン作りのワークショップを開催</p>	<p>住民に受け入れられた かつての屋号を記した提灯</p>	<p>手提げ提灯を持った観客が 街を行き交った</p>	<p>牛乳パック ランタン</p>
<p>子供に好評の 手提げ提灯</p>	<p>メインイベントとなるキャンドルアート (モチーフ：地域の史跡の一つである虹濁橋)</p>		

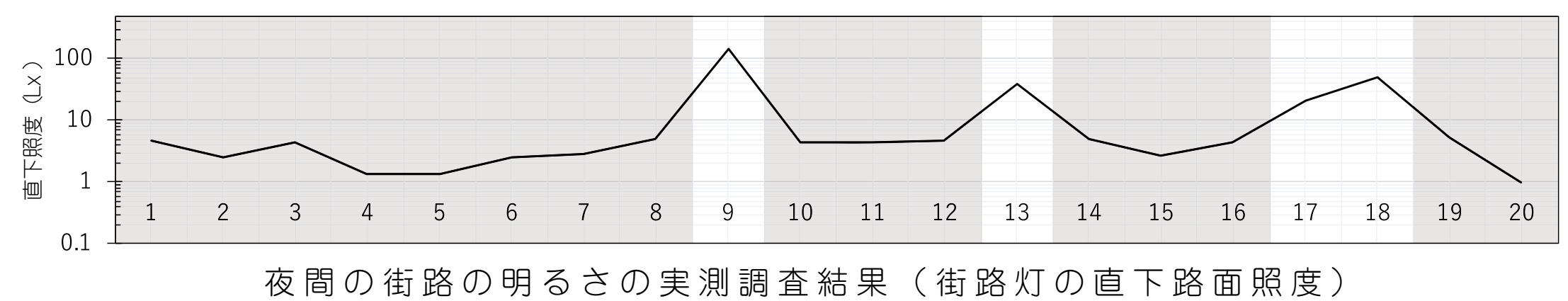
## 成果

### 住民の意識の変化：“諦め”から“見直そう”という意識へ



## 街の声

- 40代~50代女性 三重町在住  
普段は人通りが無くてさびしいが賑やかで良かった
- 60代~70代女性 三重町在住  
またこのような事をしてほしい
- 60代~70代女性 三重町在住  
昔のようにぎわいを感じた
- 60代~70代女性 三重町在住  
店を譲る気だったが、もう少し続けることにした



アンケート内容	とてもそう思う	比較的そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	そう思わない
普段よりもイベント時の市場通りの方が明るいと感じるか	18	9	1	0	0
普段よりもイベント時の市場通りの灯りの方が安心して歩くことができるか	17	11	0	0	0
イベント時の市場通りの明るさが普段の通りにも必要だと感じるか	18	10	0	0	0

## 今後の課題

### スタートラインへの助走

本事業での取り組みはあくまできっかけに過ぎず、今後も地域住民との対話やワークショップ活動を通じて、より良いまちづくり、光環境について考えていく必要がある。地域住民が主導してまちづくり、光環境改善に取り組み始める機運が高まった時に、初めて本当のスタートラインに立つことができるため、そこに向けた支援活動・共同研究を今後も続けていきたい。

